

# 今後の山岳遭難防止対策に関する主な論点について

観光スポーツ部山岳高原観光課

## 【基本的な考え方】

### 1 目指すもの

登山者の自律的な判断と準備（学びの機会の提供）による「安全登山の実現」を基本に、啓発を強化するとともに、必要に応じて規制的措置を講ずるなど実効性ある遭難防止対策を実施することによいか。

### 2 対象者

登山の普及や登山のデジタル化による登山に必要な知識や技術が伴わない登山者や過去の成功体験に基づいた山選びをする中高年登山者、外国人（冬のバックカントリースキーを含む）の遭難増加への対応が必要か。

《**学びの機会の提供**》 登山者にどのように「学び」の機会を提供し、行動変容を促すか。

《**規制的措置の必要性の検討**》 登山を安全に楽しむためには啓発の強化だけでは不十分か。他県では規制的措置として様々な措置（罰則、登山計画書の事前審査制、事前学習制等）を取っているが、本県における導入の可否を検討。

《**その他**》 様々な山岳遭難防止対策がある中で、特に何に力を入れるべきか。（優先順位や、短期・中長期の視点などを含む。）

## 【個別項目】

### 1 登山者の実態把握の強化

- ・登山者数、属性の把握が不十分である中、詳細な原因分析のため、**登山者カウンター**の設置や**データ連携（アプリ等）**を進めるべきか。
- ・登山計画書に紐づく**下山後のフィードバック**の仕組みを導入すべきか。

### 2 登山者の学びの促進（行動変容の促進）

- ・初歩的遭難の増加を踏まえ、**入山前の事前学習（講習・動画視聴等）**の受講を求めるべきか。

《参考》 入山前の**事前学習制**の導入 [静岡県（富士山）]

### 3 情報発信・啓発のあり方

- ・従来の啓発が届いていない**登山経験が乏しい者**への**情報発信**として、どのような対応の工夫（SNS・インフルエンサーの活用等）をすべきか。
- ・山のグレーディングについて、紙中心の運用から**デジタル中心へ**転換すべきか（自身の力量等に合った山を検索しやすい**アプリ・WEB**サイトの導入等）。
- ・属性別（**年齢、経験、国籍等**）に**情報を出し分ける取組**として、何をすべきか。

### 4 水際対策

- ・水際対策として本県ではどのような形の**登山ゲート**等が望ましいか（登山口が多いため一部登山口における物理的な登山ゲートの設置や当該取組の**デジタル版**での実施等）。

《参考》 弾丸登山や軽装登山を防ぐための**登山規制（登山ゲート等）** [山梨県・静岡県（富士山）]

### 5 規制・罰則

- ・登山計画書の届出義務の実効性確保のため、**未届への罰則や罰金**を導入すべきか。
- ・他県では各種の規制的措置を実施しているが、本県でも導入すべきか。
- ・冬山・バックカントリー等に対し、**ガイドラインの改定**や**指定登山道の見直し**を行うべきか。

《参考》 登山計画書の未届への**罰則規定** [岐阜県・石川県・新潟県・群馬県・富山県]

登山計画書の**事前審査制** [群馬県・富山県 ※整備された一般登山道は対象外]

冬山入山規制（**努力義務**） [群馬県・富山県 ※一部山域に限る]

## 【その他】

- ・上記以外の項目：**費用負担のあり方**（救助費用の有償化、協力金（登山道整備等）の設定）など